

復活節第四主日 2020.5.3

わたしは羊の門である

ヨハネ 10 章 1-10 節

「はっきり言っておく。羊の囲いに入るのに、門を通らないでほかの所を乗り越えて来る者は、盗人であり、強盗である。門から入る者が羊飼いである。門番は羊飼いには門を開き、羊はその声を聞き分ける。羊飼いは自分の羊の名を呼んで連れ出す。自分の羊をすべて連れ出すと、先頭に立って行く。羊はその声を知っているので、ついて行く。しかし、ほかの者には決してついて行かず、逃げ去る。ほかの者たちの声を知らないからである。」イエスは、このたとえをファリサイ派の人々に話されたが、彼らはその話が何のことか分からなかった。

イエスはまた言われた。「はっきり言っておく。わたしは羊の門である。わたしより前に来た者は皆、盗人であり、強盗である。しかし、羊は彼らの言うことを聞かなかった。わたしは門である。わたしを通って入る者は救われる。その人は、門を出入りして牧草を見つける。盗人が来るのは、盗んだり、屠ったり、滅ぼしたりするためにほかならない。わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。

説教

イエスさまは良い羊飼いだと信じています。だから、みんなイエスさまに従います。でもきょうの福音では「わたしは羊の門である」とイエスさまは宣言しています。

「羊飼い」ではなく「羊の門」？なんだかよくわかりません。

門は門でしょう、なんでわざわざ「羊の門」だというのでしょうか。

わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。ヨハネ 10:11
すぐに「イエスさまは良い羊飼いだ」こう付け加えているので、まあ安心するのですが、でも「羊の門」が気になります。

そこで、こう分けてみました。

良い羊飼い=イエスさま

羊の門=キリストさま

こう分けて考えてみるとすこしかッコウがつきスッキリしたように見えます。地上に生きて宣教していたのはイエスさま、復活して姿を現されたのがキリストさま。イエスさまは「良い羊飼い」でキリストさまが「羊の門」。実際に2000年まえにガリラヤで説教されていて、エルサレムで処刑されたお方がイエスさまで、復活され昇天されたお方がキリストさま。お二人あわせてイエス・キリストさま、なのでしょうか。ちょっと変です。そうではなく、一人のお方でイエス・キリストさまです。だからイエス・キリストは良い羊飼いであり、かつ、羊の門でもあるお方なのです。

わたしは門である。わたしを通過して入る者は救われる。ヨハネ 10:9

イエスさまのこの救いのことばを信じる人、復活のイエス・キリストを信じることが救いへの道だとハッキリと示されています。

逆にいえば、いまのあなたが「良い羊飼い」に導かれていなくても「羊の門」さえ通っていけば救われる、と福音は慰めています。
